

# Our Innovation History

オリンパスは、1919年に顕微鏡の国産化を目指し創立されました。

それから約30年後には、世界初の実用的な胃カメラの開発に成功しました。

最初の製品を世に送り出してから今日に至るまで、

社会に向けて新しい価値を創造するというDNAは受け継がれています。

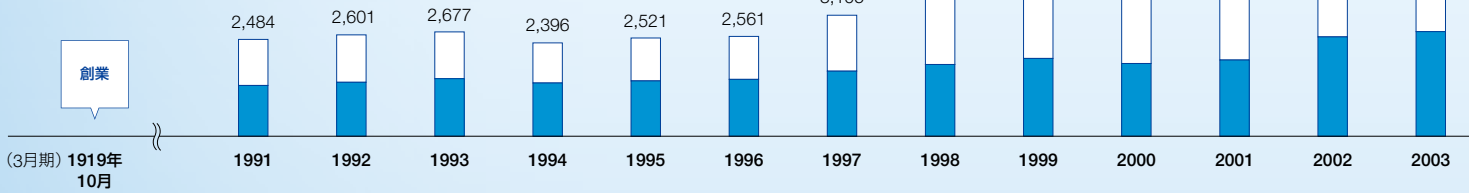
## 売上高の推移

(億円)

(注) 情報通信事業の売上高除く(2005年～2013年3月期)

2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

■ 医療事業 □ その他



## 創業と経営近代化への道

- 1919** 「株式会社高千穂製作所」として創立 (顕微鏡の国産化を目的)
- 1921** 商標を「オリンパス」として登録
- 1949** 社名を「オリンパス光学工業」と改称  
東京証券取引所に株式上市

## 光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充

- 1964** 欧州現地法人設立
- 1968** 米国現地法人設立
- 1979** カリフォルニア州に米国拠点設立 (現 北米最大の医療修理サービス拠点)
- 1989** 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに現地法人設立

## 医療事業の多角化

- 2001** テルモ(株)と提携
- 2004** Celon AG社買収
- 2008** 中国(上海)に初のトレーニングセンター設立  
英国 Gyrus Group PLC社を買収 (医療事業における外科分野を強化)

1919年～1950年代

1960年～1980年代

1990年～2010年

## 医療事業の進化の歴史

### 世界初の実用的な胃カメラを開発

東大第一内科の医師と当社技術開発陣との共同開発で胃カメラ実用化に成功。ファイバースコープの登場で胃の中を直接リアルタイムで見ることが可能に。

### 外科事業への参入

内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、1979年にドイツの硬性鏡メーカーを買収、外科内視鏡分野に本格的に進出。

### ビデオスコープで新時代へ

先端部にCCDを組み込んだビデオスコープにより、画像をテレビモニターに表示し、複数の医療従事者が観察状況を共有可能に。

## 医療製品



**1950**  
世界で初めて実用的な胃カメラを開発



**1964**  
ファイバースコープ付きガストロカメラ「GTF」発売



**1966**  
当社初の「生検用スコープ」および「処置具(生検鉗子・細胞診ブラシ)」発売



**1975**  
医療用硬性内視鏡分野に参入

**2000**

ビデオ内視鏡システム「EVIS EXERA」発売



**2002**

世界初のハイビジョン内視鏡システム「EVIS LUCERA」発売

**2006**

NBI搭載のビデオスコープシステム「EVIS EXERA II」「EVIS LUCERA SPECTRUM」発売



## 科学・映像製品



**1920**  
当社初の顕微鏡「旭号」発売



**1936**  
当社初のカメラ「セミオリンパス」発売 (カメラ事業に参入)



**1963**  
世界初のハーフサイズ一眼レフカメラ「オリンパスペンF」発売



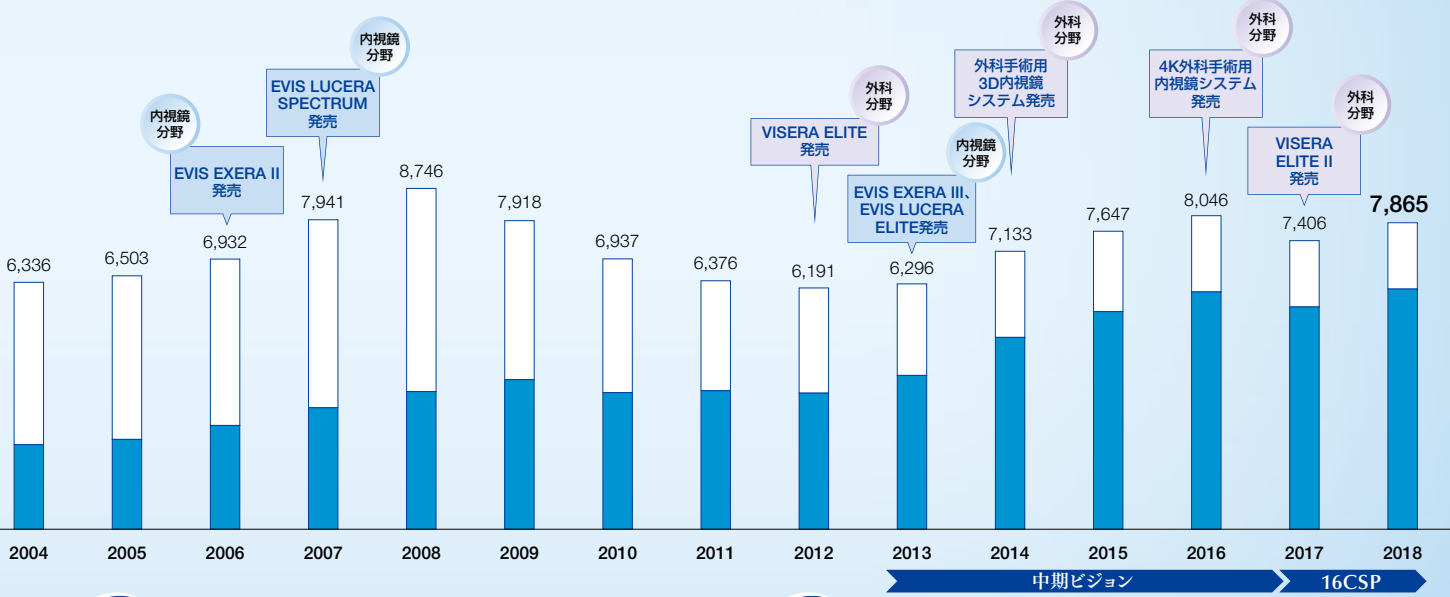
**1968**  
当社初の工業用ファイバースコープを発売 (工業用内視鏡分野に参入)



**2006**  
非破壊検査機器「OmniScan iX」発売



**2009**  
当社初のミラーレス一眼「OLYMPUS PEN E-P1」発売



### 原点回帰と医療事業へのリソースシフト

**2011** 過去の損失計上の先送り発覚  
**2012** 新経営体制が発足  
 中期経営計画(中期ビジョン)発表  
 ソニー(株)との業務・資本提携  
 情報通信事業を譲渡

**2013** 東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除  
 海外市場での資金調達(約1,100億円)  
**2015** 分社を統合し、マトリックス型の組織体制へ移行

### 経営再建ステージから持続的発展ステージへ

**2016** 医療用内視鏡関連の開発・製造拠点(会津・白河・青森)を増強(新棟竣工)  
 中期経営計画「16CSP」発表

**2017** 米国Image Stream Medical社を買収

#### 2011年～2015年

#### 2016年～現在

### 「内視鏡外科手術」の発展

HD画像の外科内視鏡や、高周波と超音波を同時出力する世界初の外科手術用エネルギーデバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、革新的な製品を順次投入。

### 特殊光観察で「光を診る」時代へ

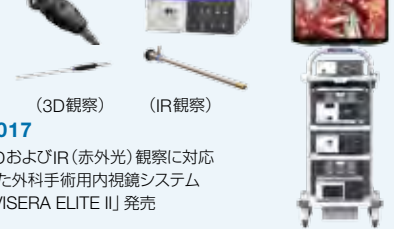
「NBI(狭帯域光観察)」の開発等、技術的な進展が加速。  
 内視鏡は観察だけでなく、治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。



**2012**  
 世界初のバイポーラ高周波と超音波の統合エネルギーデバイス「THUNDERBEAT」発売



**2012**  
 消化器内視鏡の次世代基幹システム「EVIS EXERA III」「EVIS LUCERA ELITE」発売



**2017**  
 3DおよびIR(赤外光)観察に対応した外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」発売



**2013**  
 ミラーレスのフラッグシップ機「OLYMPUS OM-D E-M1」発売



**2016**  
 シリーズ最高の明るさと高画質を実現した工業用内視鏡「IPLEX NX」発売



**2016**  
 生命現象を高速かつ正確に捉える共焦点レーザー走査顕微鏡「FV3000」発売



**2016**  
 ハンドヘルド蛍光X線分析計として初の防塵・防水性能規格IP65に準拠した「VANTA」発売



**2017**  
 超音波探傷器の小型軽量モデル「EPOCH 6LT」発売